

広報
なんたん



Vol.33



【特集】

「おもい」を「技」で

2009年
2・3月号



「技」で



広報 なんたん もくじ

② 特集・「おもい」を「技」で

⑧ インフォメーション

- ・上下水道料金を改定します
- ・裁判员制度が始まります ほか

⑫ 行政トピックス

- ・平成21年南丹市成人式
- ・平成20年度南丹市表彰式
- ・平成21年南丹市消防団出初式 ほか

⑱ いきいき南丹／ぶらりなんたん

⑳ 図書館へようこそ！

㉑ マラウイ体験記／環・境・市・民

㉒ みんなのひろば

- ・スプリングスひよし、日吉ダム10周年記念事業川柳・絵画表彰式
- ・南丹市青少年すこやかフォーラム ほか

㉔ なんたんミュージアム／わが家のアイドル

今月の表紙

南丹工芸文化祭での工芸体験コーナー「はしづくり体験」（2月1日）。京都伝統工芸大学校の学生の指導を受けながら、小さな職人たちが「ほんまもん」の道具でマイはしを制作しました。



⑨



⑥



⑤



⑧



⑦

「おもい」を

「おもい」をかたちに

何かを作るとき、形にしようとしたとき、そこには作り手の「おもい」があります。

その「おもい」は、さまざまな技術や技法を使って表現されます。技は受け継がれ、そして新しく創り出されるものでもあります。技によって形づくられた「おもい」を感じ受け取ること、豊かな心が広がり、また新たな「おもい」が生まれるでしょう。

それは作品を作るときだけに限りません。農作物を作るときには、大きくなるようにたくさんでしよう。料理を作るときには、食べる人のことを考えて調理や味付けがされるでしょう。公園の砂場に作られた小さな山も、地域をつなぐ道路や橋も、作る人の「おもい」がなければ、そこには存在しないのではないでしょうか。

いま、南丹市の魅力の一つ、ものづくりを、地域に根付く宝物として大切に守り育てていく取り組みを進めています。1月31日・2月1日に「南丹工芸文化祭」を開催しました。地域にきらめくものづくり文化を市全体で高めていきたいと思います。



⑩

- ① 地域伝承の技法を知る (トチ餅づくり体験)
- ② 何よりも使いやすさを求めて (陶芸家)
- ③ 64本のボビンが織り成す「くみいと」の機械
- ④ 竹のしなやかさ、繊細な美しさを編む (竹工家)
- ⑤ 素材を生かし、生活になじむものを (染織家)
- ⑥ 真っすぐな視線の先に伝統の技あり (陶芸家)
- ⑦⑧ 自然を愛し、やまない探求心 (木工家)
- ⑨ その手、その背中に宿る趣 (陶芸家)
- ⑩ 小さな手に秘める無限の可能性 (工芸体験)



▲職人の「技」が光る工芸展示会（南丹工芸文化祭）

「技」を知る

今年で2回目の開催となった「南丹工芸文化祭」。昨年に引き続き、南丹市国際交流会館および南丹市立文化博物館において、南丹地域で活躍される工芸家の作品展示をはじめ、風土や環境を生かしたものづくりを2日間にわたって紹介。陶芸、木工、竹工、漆工、藍染、金工、染織、くみいなど、それぞれの技と感性が凝縮された数々の作品が並びました（工芸展示会）。一つ一つの作品が創り出す空間には、温かき、繊細さ、純朴さ、雄大さ、親しみ、洗練されたバランスなど、豊かな表情が広がっていました。訪れた人々は、個々に表現された「おもい」や「技」をじっくりと眺め、市内にこれほど多くの工芸家が在住し、伝統と創造の高い技術が根付いていることに驚きと感心の表情でした。

また、市文化協会連絡協議会に加盟するアマチュア工芸家の作品展示（文化事業共同展示会）や、市内の授産施設、共同作業所などで制作された作品も発表・販売しました（工芸作品発表会）。販売品の中でも人気があったのは『京のつちたま』。これは、南丹管内



▲『京のつちたま』の販売

の障がい者施設と京都伝統工芸大
学校、南丹保健所が協働で商品開
発し、昨年10月から販売を開始し
た手作りのオリジナル製品です。
一つ一つ、丁寧に丸められた色土
の玉が、優しくなんとも味わいの
ある表情で素焼きのアクセサリー
に仕上げられています。この『京
のつちたま』は、なんとたんハ
トショップ（西友亀岡店4階）
でも販売されています。

作品の展示・販売のほかに、今
年は京都伝統工芸大学の学生に
よる技の実演や体験コーナーを設
け、ものづくりを身近に感じてい
ただく機会を作りました。

はしづくり、キーホルダーづく
り体験は子どもたちに大好評。ノ
コギリやカンナなど、「ほんまも
ん」の道具を小さな手に持ち、真
剣なまなざしで制作に取り組む様
子が見られました。

また、合同開催の「南丹美術工



▲小さくても「ほんまもん」のカンナではしづくり体験

芸教育展」では、南丹地域の公立
の保育所、幼稚園、小学校、中学
校、高等学校、特別支援学校の幼
児・児童・生徒と京都伝統工芸大
学校の学生・卒業生らの美術工芸
作品を展示しました。次世代を担
う子どもたちのほほ笑ましい作品
や職人顔負けの力作がずらり。工
作や彫刻などの立体作品の部と、
絵画やデッサンなどの平面作品の
部、あわせて約1,000点が、
展示場所を分けて所狭しと並べら
れました。

前もって行われた審査会で選考
された特選（京都府知事賞、京都
府教育委員会教育長賞、南丹教育
委員会連絡協議会長賞、京都伝統
工芸大学校理事賞、京都新聞社

▶南丹地域の子どもの力作が並ぶ（南丹美術工芸教育展）



賞）の受賞者には、1月31日に表彰授与が行われました。作品展示会場では、授与されたばかりの賞状を手に、榮譽に輝いた作品の前で記念撮影する家族連れの姿がありました。そのほか、出品者には佳作または奨励賞が授与されました。

同じくジョイントプログラムとして1月31日に開催された「次世代へつなぐ南丹地域文化フォーラム」（京都府南丹広域振興局主催）では、地域で伝承されるトチ餅づくり（美山町）や佐伯灯籠人形浄瑠璃（亀岡市）、和知人形浄

瑠璃（京丹波町）を、親子で体験するワークショップなどが行われました。普段見ることのない伝統の技に子どもたちは興味津々。トチ餅づくりでは「トチヘシ」という昔からの道具を使ってトチの実の皮むきを体験し、ほろ苦さのあるトチ餅を試食しました。

子どもたちにとって、地域に伝わる技を知り、その素晴らしさを実感する貴重な機会となったことでしょう。これら伝統の技が財産として地域に受け継がれ、いつまでも存続されることが伝承者の「おもい」であり、課題でもあります。



▲佐伯灯籠人形浄瑠璃体験



▲和知人形浄瑠璃体験



▲トチ餅づくり体験

南丹地域の職人を発見

今回、南丹工芸文化祭の開催にあわせて実行委員会が取り組んだもう一つのプロジェクト、それは「南丹職人発見マップ」の制作。南丹市内で活躍されているさまざまな分野の工芸職人の所在を、市内地図に示し、職人の工芸に対する「おもい」や作風、制作活動の様子などを織り交ぜて紹介する冊子（A6判）です。南丹市の、もろのづくり、文化をさらにPRしながら、魅力のあるまちづくりにつなげていくことを目的に作成しました。

この企画・取材・制作にあたっては、京都伝統工芸大学の工芸サークル「こたくみ」の学生たちが、市内を走り回って工芸家宅を訪問。感じるままに職人たちの「おもい」を受け止めて、マップに記しました。工芸を意欲的に学ぶ学生たちの専門的な知識、観点や意見を取り入れて、より実用的で活用できるものという思いで作られています。

職人データは、職人の氏名、工房名、所在地のほか、工芸分野、職人略歴、工房の特徴を記載。そして工房の見学・体験が可能な場合や、ギャラリー・カフェなどが

あるところにはマークを入れて示しました。

掲載されている職人は39人。今回の南丹工芸文化祭に出展される方々の中から、取材をお世話になりました。この冊子を見るだけでも、多彩なものがくり文化が根付いていることが分かりますが、この広い市域にはまだまだ紹介しきれないほどの多くの工芸職人がおられます。

京都伝統工芸大学の工芸サークル「こたくみ」は、同大学の10の専攻課程（陶芸、木彫刻、仏像彫刻、蒔絵、木工芸、金属工芸、漆工芸、竹工芸、石工芸、和紙工芸）から学生が集まり、さまざまな活動を通して伝統工芸業界の実際について学習し、また業界に貢献できるように設立されたサークルです。

「南丹職人発見マップ」制作にあたって全体のコーディネートをしていたのは、NPO法人「京都匠塾」代表の高橋博樹さん。京都伝統工芸大学の卒業生であり、現在、同大学で講師をされています。そして、制作チーム統括ディレクターは、「こたくみ」の代表で、京都伝統工芸大学1年生の上田篤史さん。統率力、行動力、発想力でサークル顧



「京都匠塾」代表
高橋 博樹さん

京都の歴史がはぐくみ、受け継がれてきた伝統工芸の技は、世界でも類を見ないほど多彩で洗練されたものです。これらを新しい時代につなげていくために、私たち若手職人だからこそできることが何かあると思つて結成したのが「京都匠塾」です。伝統工芸大学



▲工芸職人(中央)宅を訪問し、インタビュー

校の卒業生を中心とした若手職人が集まり、町家工房「息吹」(園部町本町)を拠点に、工芸市の開催や子どもたちへの教室指導、地域活動・イベントにも積極的に参加し、伝統工芸業界がもっと活性化していくような活動を展開しています。

そして、この思いを学生の中でも広げていこうと、学生から有志を集めて昨年につくったサークルが「こたくみ」です。若手職人と学生が連携して、次世代に受け継がれる環境づくりを目指しています。

工芸サークル「こたくみ」には、現在70人の学生が所属しています。そのうち、今回の「南丹職人発見マップ」制作に取り組んだのは14人。市内のおよそ40件の工芸家のお宅や工房を、メンバーが手分けして訪ねました。ものづくりにへの「おもい」は本当にさまざま、自分たち自身の勉強にもな



「こたくみ」代表
上田 篤史さん

りました。制作に際しては、職人さんの作品の良さが伝えられるように、写真撮影や地図の表示の仕方など試行錯誤しました。南丹市は4つの府県に接する珍しい市で、山間部、市街地といろんな場所があり、これがものづくりの多様性につながっているのではないかと思います。貴重な体験となり、南丹市をより知る機会になりました。これまで伝統工芸に詳しくなかった方々にも、また子どもたちにも、実は南丹市にこんな工芸文化があふれているということを知ってもらいたいと思っています。



▲マップ会議を重ねる「こたくみ」の制作チームメンバー



▲南丹職人発見マップ

間の高橋さんと13人のメンバーと共に取り組んでいただきました。昨年10月から取材を始め、インタビュー、作品の撮影など何度も足を運び、そして冊子のレイアウトや地図の表示方法など、マップ会議は何度も何度も重ねられました。

完成した「南丹職人発見マップ」は、南丹工芸文化祭の作品展示会場で来場者に無料配布しました。受け取った方の中には、マップを手に、展示されている工芸作品とマップを照らし合わせながら、じっくりと鑑賞に浸る姿がありました。来場者アンケートでも、『カラーで職人の写真が入っ

ていて見やすい』、『学生さんの編集の質の高さに感心』、『このマップを見て、工房へ行ってみたい』という感想がありました。

今後、南丹市のホームページからも閲覧できるように掲載をする予定で進めています。冊子を希望される方は市役所企画推進課（TEL 0771-68-0003）へお問い合わせください。

南丹市から全国へ発信

「ものづくり」のまち

平成23年、

京都で第26回国民文化祭開催
国民文化祭は、国内最大の文化・芸術の祭典で、昭和61年から毎年、各都道府県持ち回りで開催されています。再来年の秋には、京都が開催地となり、府内の市町村を会場にさまざまな催しが行われます。

今年の2月1日は、この国民文化祭開催のちょうど1,000日前にあたり、府内各地でカウントダウンイベントが開催されました。この平成23年の開催に向けて、わがまちでも、南丹市ならではの取り組みを展開し、「ものづくり文化」の魅力をアピールし、盛り上げていきます。

◇京都伝統工芸職人展

今年4月1日から26日には、京都伝統工芸職人展「用の美の空間2009」京都南丹地域にとけこむ工芸品」を、美山かやぶき美術館と郷土資料館で開催（NPO法人「京都匠塾」・南丹市主催）します。南丹地域ゆかりの職人による伝統工芸品の展示・販売、そして若手職人による竹工芸、木工芸の技の実演（土日のみ）が行われます。

◇伝統的工芸品月間国民会議全国大会・京都大会

今秋には、第26回伝統的工芸品月間国民会議全国大会・京都大会が南丹市を会場に開催されることにあわせて、南丹市独自のさまざまな特色あるイベントを開催する予定で企画を進めています。

◇南丹工芸文化祭

ホップ、ステップ、ジャンプで、この南丹工芸文化祭も回を重ねるごとにますます内容を充実させていきます。今回の南丹工芸文化祭では、次回の開催も楽しみにしているという声をたくさん受け取りました。また、時間の都合で体験コーナーに参加できなくて残念だった、会場のレイアウトが分かりにくかったという意見もいただきました。皆さんの意見を参考に

にしながら、より良いイベントにしていきたいです。

◇国民文化祭

昨年の徳島県での開催では、延べ約77万人の観客が会場を訪れました。今年の秋には静岡県で、来年は岡山県で開催されます。そして第26回は、ここ京都府で！伝統と創造性あふれる豊かな文化を生み出してきた京都で、日本文化の良さを見つめ直し、来るべき時代を生き抜いていく知恵と新たなライフスタイルを創造していかうとの思いを込めて「ここをを整える」文化発心（ほっしん）をテーマにしています。

国民文化祭では、全国から参加者や観客が京都へ集まってきました。出演するもよし、作品を応募するもよし、鑑賞して文化に浸るもよし。誰でも、さまざまな形で参加することができます。

これから南丹市でも、準備を進めていきます。市民の皆さんにもどんどんとアイデアを提案していただきたいと思います。

どこにも負けないという誇りを持って、わがまちの「ものづくり文化」を全国に発信していきましょう！

成功させよう！

平成23年国民文化祭 京都開催

10月から上下水道料金を改定します



南丹市水道審議会の答申を受け、条例の改正案が平成20年第4回定例会（12月議会）で可決されました。今年（2021年）の10月請求（9月使用分）から南丹市の水道料金（上水道、簡易水道）と下水道使用料（公共下水道、農業集落排水）を改定します。

この改定は、合併後の公平性を保つために市内全体で制度の統一を図るもので、今の料金体系と大きな差が生じる場合があるため段階的に調整をしていきます。そして平成24年4月には、統一の料金体系に完全移行することになります。



10月から料金体系を市内統一

これまで旧町ごとに料金体系が異なっていました。新しい料金体系は基本料金から超過した場合、超過量が多くなるほど単価が上がる「逓増（ていぞう）型料金体系」に統一します。【表1・2】

例えば上水道（口径20mm以下）の場合、超過量が30m³以下なら160円/m³ですが、超過量が31m³になると170円/m³になります。つまり、使用水量や水道管口径によって1m³当たりの単価が異なります。この料金体系によって、たくさん水を使うほど割高になります。使用量を抑えるほど単価も低く抑えることができます。家庭での節水にもつながる料金体系です。

経過措置で段階的に調整

料金は平成21年10月から改定しますが、これによって今の料金と新料金との間に大きな差が生じる使用者が出るため、統一料金に移行するまでの経過措置として、上る方も下がる方も段階的に調整を行います。【表3】

新旧の料金を計算（消費税抜き）し、その差額に対して増減にかかわらず調整率を乗じることによって、大幅な増減を緩和していきます。

上水道・簡易水道料金（平成21年10月から）【表1】

基本料金（10m ³ まで）		従量料金（超過単価1m ³ 当たり）		メーター使用料（量水器口径別料金）（上水道・簡易水道）	
上水道	簡易水道	口径20mm以下	口径25mm以上	口径	料金
1,300円	1,600円	11m ³ ～30m ³	11m ³ ～30m ³	13mm	50円
		31m ³ ～100m ³	31m ³ ～100m ³	20mm	60円
		101m ³ ～	101m ³ ～	25mm	70円
				30mm	110円
				40mm	130円
				50mm	260円
				75mm	610円
				100mm	820円

下水道使用料（平成21年10月から）【表2】

基本料金	従量料金（超過単価1m ³ 当たり）
1,000円	1m ³ ～10m ³ 100円
	11m ³ ～20m ³ 120円
	21m ³ ～30m ³ 140円
	31m ³ ～40m ³ 160円
	41m ³ ～50m ³ 180円
	51m ³ ～100m ³ 200円
	101m ³ ～ 220円

★ 計算式 ★（上水道・簡易水道料金、下水道使用料共通）

（基本料金＋従量料金＋メーター使用料）×消費税率（超過量×単価）

※下水道の場合、メーター使用料はありません。
※10円未満切捨

例えば…

上水道（口径20mm）で使用水量50m³の場合
{1,300円＋(20m³×160円＋20m³×170円)＋60円}×1.05
＝8,350円（10円未満切捨）になります。

【表3】

経過措置の期間	調整率
平成21年度（平成21年10月～平成22年3月）	4分の3
平成22年度（平成22年4月～平成23年3月）	4分の2
平成23年度（平成23年4月～平成24年3月）	4分の1
平成24年度以降（平成24年4月～）	料金統一

★ 調整期間中の計算式 ★

$$\{ \text{新料金} + (\text{旧料金} - \text{新料金}) \times \text{調整率} \} \times \text{消費税率}$$

この経過措置によって、使用料収入の安定化を図り、会計の安定的運営に努めます。

下水道負担金の改定

公共下水道、特定環境保全公共下水道、農業集落排水の受益者負担金・分担金（新たに排水設備を接続する際に必要な負担金・分担金）を、それぞれ事業ごとに統一します。なお、現在整備途中の公共下水道については、経過措置を設けます。

■ 公共下水道事業受益者負担金

- ・ 一般家庭
均等割15万円
宅地面積1㎡当たり5000円
(上限50万円)

・ 事業所など

- 均等割30万円
- ・ 建築面積1㎡当たり5000円
- ・ 共同住宅（8戸以上）
均等割2万円（1戸当たり）
- ・ 建築面積1㎡当たり5000円
- 特定環境保全公共下水道事業および農業集落排水事業
・ 新規加入分担金75万円

そのほかの改定について

水道料金では、用途別料金体系は廃止し、水道メーターの使用料を設けることを統一しました。

また、下水道使用料では、水道水以外の水を使用される方や、水道水と水道水以外の水を併用して使用される方の汚水量の計算方法を統一しました。水道水以外の水のみを使用される場合は、1世帯1使用月につき10㎡とし、1人増すごとに5㎡を加算した量を汚水量とします。併用使用の場合は、水道水以外で使用した汚水量の2分の1に、水道使用水量を加えた量が1使用月の汚水量となります。

これまでは旧町ごとに料金格差があり、公平性を確保することは合併した南丹市の課題でした。新たな料金体制への統一に、皆様のご理解をお願いします。

水漏れ・破損はありませんか？

配水管から各家庭に設置している水道メーターまでを南丹市の管理部分とし、水道メーターから屋内側については使用者の管理部分となっています。この部分の水道管に水漏れや破損があれば、余分な水道料金を支払うこととなります。前月に比べて急に水道料金が増えたようなときは、漏水している可能性があります。

漏水を発見するには、家の中の水道を使わないよう蛇口を全部閉めて水道メーターを確認します。水道メーターの回転指標（パイロット【下図】）が止まっている場合は異常ありません。パイロットがまわっている場合は、どこかで漏水している可能性があります。

漏水の可能性がある場合は、給水装置工事業者へ連絡してください。水道の漏水は水道料金の負担だけでなく、湿気などで家屋に被害を及ぼすことにもなりますので、早急に修理を依頼してください。なお、漏水箇所によっては減



免制度がありますので、詳細については上水道課へお問い合わせください。

水は大切な資源です。日ごろから節水に心掛けましょう。

また、下水道はみんなで使う公共の財産です。台所から出る残飯や廃油などは排水管のつまりの原因になりますので流さないください。整備が済んだ地域の方でまだ未接続の方は、早急に接続をお願いします。

【お問い合わせ先】

市役所上水道課（八木支所内）
TEL 0771-68-0053
市役所下水道課（八木支所内）
TEL 0771-68-0054

5月21日 から 裁判員制度が始まります

裁判員制度は、国民の中から選ばれる裁判員が、刑事裁判に参加する制度です。6人の裁判員が、3人の裁判官と一緒に刑事裁判に立ち会い、被告人が有罪か無罪か、有罪の場合どのような刑にするかを判断します。

**本年5月21日に
全国60カ所が始まります**

裁判員制度は全国の地方裁判所の本庁50カ所、支部10カ所が始まります。裁判員は、それぞれの裁判所の管轄区域内に居住する有権者から選ばれます。

裁判員裁判の対象事件

平成19年を参考に見ると、全国の地方裁判所で受理した刑事通常第一審事件数は97,826件。そのうち裁判員裁判対象事件数は2,643件で、強盗致傷、殺人、現住建造物等放火、強かん致死傷、傷害致死、強制わいせつ致死傷、強盗強かん、強盗致死、危険運転致死などの事件です。

裁判にかかるとは

約7割が3日以内

裁判員の負担を軽減するために、裁判にかかるとは日数ができるだけ短くなるように、さまざまな工夫や努力が行われます。例えば、

裁判における争点や証拠を事前に整理したり、できるだけ裁判を連日に行ったりすることで、約7割の事件は、3日以内で終わります。

事件によって異なりますが、例えば、午前9時30分に裁判所に行き、昼食時間や休憩などをはさんで午後5時まで裁判や評議、打ち合わせを行うといったスケジュールとなります。

裁判員・補充裁判員になる確率

◆1年間で裁判員候補者になる確率（1件当たり50人から100人選ぶと仮定した場合）

…約400人〜800人に1人

◆1年間で裁判員または補充裁判員になる確率（補充裁判員を2人選ぶと仮定した場合）

…約5,000人に1人

※平成19年最高裁判所推計による

南丹市の場合、72人（402人に1人の確率）が候補者としてくじで選ばれています。

◆選任手続きの流れ◆

―前年秋ごろ―
市町村の選挙管理委員会が選挙人名簿の中からくじで選んで作成した名簿を基に裁判員候補者名簿を作成します。

―前年12月ごろまで―
裁判所が、裁判員候補者へ名簿に記載されたことの通知と調査票を送付します。

裁判所が、事件ごとに裁判員候補者名簿の中からくじで裁判員候補者を選定します。

―原則、裁判の6週間前まで―
裁判所が、選ばれた裁判員候補者に選任手続きの期日の通知と質問票を送付します。

―裁判の当日―
裁判員候補者に、裁判所へ出向いていただき、辞退希望などの質問が行われます。

最終的にその事件の裁判員6人がくじで選ばれ、午前中から審理を開始します。

裁判員制度Q&A

Q. 仕事が忙しいのですが、辞退できませんか？

A. 「仕事が忙しい」というだけでは辞退できません。しかし、とても重要な仕事があり、自分でこれを処理しなければ著しい損害が生ずる恐れがある場合には、辞退することができます。

辞退の判断は裁判所が行いますが、その際には、裁判員として裁判所に通う期間、お勤め先の規模や、代わりの人がいるのか、裁判員として参加することが事業にどのくらい影響があるのかなどを考慮することになります。

Q. 裁判員候補者や裁判員になったら、手当や交通費はもらえるのですか？

A. 裁判員候補者または裁判員として裁判所に来た方には、日当と交通費が支払われます。日当の具体的な金額は、裁判員の場合は1日当たり1万円以内、裁判員候補者の場合は1日当たり8千円以内で、選任手続きや審理・評議にかかった時間に応じて支払われます。

裁判員制度ウェブサイト

<http://www.saibanin.courts.go.jp/>



青少年健全育成成功労者表彰 — あすなる会 —

「あすなる会」は、京都府内唯一の児童自立支援施設である京都府立淇陽学校（園部町栄町）の後援会として、昭和35年に発足。地元住民有志が中心となって、入所している児童・生徒たちを精神的・物質的に支え続けてこられました。

このたび、これらの功績が顕著であるということで、内閣府の青少年健全育成成功労者表彰を受賞されました。今年度の団体受賞者は全国で10団体。昨年11月に日本教育会館で開催された青少年育成全

国大会において、表彰状の授与が行われました。

「このたびの受賞は、これまで後援会の礎を築いてこられた先輩方の功績があつてこそ得られた栄誉」と、昨年10月から会の代表を

約260人の会員による会費などを原資に、淇陽学校との連携の下で、卒業者や進級者への祝い品の贈呈、教材の補助、スポーツ大会の応援などを行い、子どもたち

旭日単光章

「日吉ダム建設に尽力」

故・丸山 茂さん(日吉町)

故・丸山茂さんは、昭和50年4月から平成7年4月までの5期20年にわたつて日吉町議会議員として、地方自治の発展に大きく貢献されました。その間、ダム対策特別委員会委員長や同和

対策特別委員会委員長など、日吉町の主要プロジェクトにかかわる要職を歴任され、まちづくりの礎となる施設整備や制度の充実・発展に尽力。特に、旧日吉町において重要課題であった日吉ダム建設問題については、6年間にわたつて心血を注ぎ、水没地域の方々の生活再建を最優先に、関係機関との交渉や地域の振興策などを積極的に提言するなど、その手腕を発揮されました。ご冥福をお祈りします。

振り込め詐欺の被害、依然深刻!

振り込め詐欺の被害が増加しています。京都府内での振り込め詐欺認知件数・被害総額とも年々増加。その手口も悪質・巧妙化しています。

振り込みを求める電話やファクス、はがきが届いても、**①慌てない!** **②すぐに振り込まない!** **③相談・確認!**で、被害を防止しましょう!

	件数(件)	被害総額(円)
平成19年	201	約2億5,220万
平成20年	303	約3億1,260万

金融機関に連絡し、振り込んだ預金口座の利用停止を求めてください。

★被害者は、基本的には民事訴訟を提起して、損害回復を行うことが可能です。

※昨年6月21日から、被害者の迅速な救済を図る「振り込め詐欺救済法（犯罪利用預金口座等に係る資金による被害回復分配金の支払等に関する法律）」が施行。具体的には、金融機関が犯罪利用口座を凍結し、被害者の支払申請を受けて被害回復分配金を支払うことなどが定められています。

「税金」や「定額給付金」を口実とした還付金などの詐欺に注意!

今後、特に「定額給付金」事業を悪用した還付金等詐欺の発生が懸念されます。現時点では、市役所が市民の皆さんに世帯構成などの個人情報や電話で問い合わせることはありません。また、税務署、社会保険事務所など公的機関が電話による還付金の通知や、ATMによる還付金、給付金の支給手続きを指示することはありません。

ストップ・ザ・振り込め詐欺!

日ごろの会話で話題に取り上げるなど、自分や家族、周囲の方々が詐欺の被害にあわないよう、お互いに注意しましょう。不安や不信感を抱いたり、詐欺だと気づいたら迷わずご相談ください。

★振り込め詐欺の被害にあつたら…

- ・ 京都府警察本部
振り込め詐欺総合対策本部
TEL 075-451-9111
- ・ 警察総合相談窓口
TEL #9110 (局番なし)
- ・ 南丹警察署
TEL 0771-62-0110



▶誓いの言葉を述べる谷優子さん（中央）と山田恵さん（左）



▲友人との再会に笑顔で「ピース」

夢や希望が語れる素敵な大人に —平成21年 南丹市成人式—

1月11日、南丹市園部公民館で二十歳の門出を祝う成人式を挙行了しました。スーツや晴れ着姿の新成人312人が出席し、小・中学校時代の恩師や多くの来賓が若者の輝かしい前途を祝福しました。

今年の成人式対象者は、昭和63年4月2日から平成元年4月1日生まれの市内在住者423人（園部237人、八木82人、日吉62人、美山42人）で、市内の小・中学校を卒業した方などで出席を希望される方々も対象としました。

久しぶりに出会った同窓生との会話は軽やかで、にぎやかに近況を報告し合う様子には若々しさが溢れていました。式典が始まると、来賓の方々から自分たちに贈られる祝福の言葉に、真つすぐな視線を向けていました。

佐々木市長は新成人に対し、「一瞬一瞬を大切に、自分の目標に向かって進んでください。皆さんの若い力と行動力で、新しい時代の南丹市を共に築いていただけることに大いに期待しています」と述べました。そして出席した新成人全員に、成人式実行委員が選んだエコバックとマグカップを記念品として南丹市から贈り、大川あさみさんが代表して壇上で受け取られました。

そして、新成人を代表して谷優子さんと山田恵さんが誓いの言葉を述べられました。



▲懐かしい先生方や友人との思い出のひとつ

「振り返ると、家族、友人、恩師、たくさんの方々を支えられてきました。お世話になった方々の気持ちを大切に、ひとりの人間として自覚を持って、堂々と自分の夢や希望が語れるような素敵な大人になりたいです」

式典終了後は記念撮影を行い、人生の節目にきらめく姿を写真に収めました。地域ごとに行われた懐かしい先生方や友人との懇談では、それぞれの成長を喜び、かつて二十歳の自分に向けて書いた手紙が登場する場面もありました。

功績をたたえ、表彰

—平成20年度 南丹市表彰式—

2月12日、南丹市国際交流会館コスモホールにて、南丹市表彰式を挙行し、本年度は11人の功績者に表彰状(盾)を贈呈しました。

この功績者表彰は、南丹市の自治振興、教育・文化またはスポーツの振興、社会福祉・保健衛生の推進、産業振興などにおいて特に功績があった方々をたたえて市が表彰するものです。



▲表彰式に出席された功績者の方々(一列目)

功績者

(順不同・敬称略)

谷口 健藏

明治鍼灸大学(現明治国際医療大学)および同大学附属病院、特別養護老人ホーム「はぎの里」などを旧日吉町に開設し、教育の振興、保健衛生および社会福祉の向上に貢献。

溝口 勝

特別養護老人ホーム「美山やすらぎホーム」「ケアハウス美山」などを旧美山町に開設し、高齢者福祉サービスの向上に貢献。

徳川 輝尚

障害者支援施設「こひつじの苑」「京都太陽の園」を旧園部町に開設し、障がい者福祉の向上、福祉のまちづくりの推進に貢献。

古屋 義美

知的障害者更生施設「美山育成苑」に26年間にわたって勤務し、



▲功績をたたえて功績者(左)に表彰状(盾)を贈呈

松本 豊

八木町観光協会設立当初から理事として参画、同協会長として計15年間にわたって在職し、南丹市、特に八木町の観光分野の振興および発展に貢献。

川勝 光治郎

八木町観光協会設立当初から副会長として15年間にわたって在職し、南丹市、特に八木町の観光分野の振興および発展に貢献。

寺田 弘和

八木町観光協会設立当初から副

会長として15年間にわたって在職し、南丹市、特に八木町の観光分野の振興および発展に貢献。

奥村 逸郎

国の名勝地「るり溪」において観光協会設立に尽力され、同会長および副会長として計23年間にわたって在職し、観光の振興および発展に貢献。

桂 信夫

大堰川漁業協同組合理事として22年間にわたって在職し、河川環境整備の推進と内水面漁業の振興、外来種の駆除による河川環境保護などに貢献。

竹本 嘉伸

大堰川漁業協同組合理事および副理事長として計19年間にわたって在職し、河川環境整備の推進と内水面漁業の振興、外来種の駆除による河川環境保護などに貢献。

榎原 幹夫

大堰川漁業協同組合理事として16年間にわたって在職し、河川環境整備の推進と内水面漁業の振興、外来種の駆除による河川環境保護などに貢献。

災害に強いまちづくりを目指して

―平成21年 南丹市消防団出初式―

1月11日、前夜からの降雪で一面雪に覆われたスプリングスひよし体育館で消防団出初式を行いました。市消防団員341人(美山支団は積雪対応のため欠席)、京都中部広域消防組合園部消防署員45人、消防ポンプ自動車などあわせて14台が参加しました。

式では、佐々木市長が「昨年に総合防災訓練を実施、現在市内全域に及ぶ総合防災ハザードマップの作成も進めており、これらを活用しながら、いつ起こるか分からない自然災害などに備えて安心・安全のまちづくりを進めたい」と述べました。益田武彦市消防団長は、市消防団として初めての操法大会や総合防災訓練が団全

体の士気向上や消防技能の向上に大きな成果をもたらす取り組みになったとし、「消防団員としての自覚と誇り、責任を持って災害に強いまちづくりのために、より一層尽力してほしい」と訓示しました。その後、団員の功績、勤続をた

たえて京都府消防協会長表彰、南丹市長表彰および南丹市消防団長表彰を伝達授与しました。また、併せて京都府知事表彰、消防庁長官表彰、日本消防協会長表彰および丹波地方消防連絡協議会長表彰の受章予定者を披露しました。

式終了後には、晴れ渡った冬空に向かって勢いよく一斉放水を行いました。

被表彰者は次のとおりです。
(敬称略)

■京都府消防協会長表彰

功績章

【園部】副団長・奥村久夫

【美山】副団長・東満

勤功章

【園部】分団長・須知猛

【八木】分団長・八木治

【美山】分団長・中島勲

精績章

【園部】副分団長・松本一宏／部長・中川充弘

【八木】副分団長・谷英樹・谷口成敏

【日吉】分団長・山本学／部長・小林康彦

【美山】分団長・小野秀明／副分団長・梅津博英

精勲章

【園部】部長・藤掛久士・野々口泰人／班長・人羅義広／岡部哲使・大町秀児・西田常由

【八木】部長・谷口丈晴・宅間博昭・福田亘孝・川勝経義・松本則明・羽野晋章

【日吉】部長・上原稔博・丸山敏夫・吉川博康・木口富男・宇野武久・山田正

【美山】副分団長・勝山賢一・近澤章・長野忠行・武田英喜・松本昭浩／部長・川村明彦

■南丹市長表彰

【園部】部長・矢野修一／班長・野中大樹・林哲也・大坪重樹・畑中美喜雄／保田光治・吉田伊佐夫・下間康広・中井弘之

【八木】副分団長・廣瀬信二／部長・川勝正義・川勝高博／班長・西川雄二・西村嘉晃／山田和明・池田喜彦・明田喜仁・野木真行

【日吉】班長・大塚道昭・中瀬孝彦／船越猛・宇野秀一・吉田史朗・塩内悟

【美山】部長・加藤広市・林恭宏・山本勝之・戸本宏樹／勝山幸男・小中令子

■南丹市消防団長表彰

【園部】班長・木村智・高杉義文・松下孝・大坪正典・西田享史・木村哲／山本勇二・北村誠也・川勝隆弘・上原徹也・中嶋了士・松本昌彦・中井榮治・佐々谷良・小島武浩・進士政幸

【八木】部長・中川和之・中西治郎・松浦茂夫・谷口雅紀／班長・藤原祥喜・齋藤利憲・森雅彦・村上裕紀／黒田良治・林靖浩・森和也・中川剛志・今西隆博・植田剛・西田正規・麻田宏貴

【日吉】班長・出野徹・井尻欣孝／立花湘次・磯部勝・栃下将都・宇野崇規・井上雅晶・谷口卓也

【美山】班長・寺井正和・桂隆浩・田口恭・木村匡良・田中久則・市川美津枝／長野直人・大牧雄一・山内勝弘・岡本眞宜・時岡功章



▲献身的な消防団活動をたたえて団員を表彰

20年勤続表彰

【園部】副分団長・松本一宏／部長・井上洋／班長・大西隆史／西安美由・内藤満／西田俊樹・西田誠・奥村喜久雄・湯浅重美・森伸広・谷利信悟・堀江長

【八木】副分団長・塩貝功・谷英樹／部長・松本喜孝／班長・大橋哲哉／平井義次・松本正治・浅田慎二・中川勇夫・西田修次・山本伊佐雄・山名匠

【日吉】部長・栃下宏輝／班長・井尻哲司／高田厚司・湯浅稔・湯浅智雄・湯浅清治・中瀬克彦・藤堂弘幸・徳山宣博・加地哲・水口寛司・高橋渡・出野宏幸・宇野文之・船越雅英・磯田敏秀・前田利治

【美山】部長・山内善樹・市原睦則・下野純一／班長・原田伸二／



▲使命感に満ち、厳肅な雰囲気の中での式典会場

勝山幸男・上林真実・清水英孝・中島浩晶

10年勤続表彰

【園部】部長・奥村卓己／班長・木村智・橋本貴弘／森博史・上田善郎・川勝尚武・口中淳弘・谷口誠治・森田和之・小寺睦明・小寺裕之・阪田和彦・畑中博之・井尻共貴・西田賢広・船越茂樹・原田浩雄・中尾克則・工藤良健・中井輝明

【八木】部長・中川和之・八木道徳・雨宮有治・廣瀬実・川勝高博／班長・前川純一郎・大鳥羽裕之・齋藤利憲・橋本光晴／廣瀬邦一・竹井達也・中川邦彦・平井幸弘・齊藤昌和・松本勇佑・宅間康弘

【日吉】部長・上原稔博・宇野武久／班長・小林正俊／井尻健司・湯浅唯史・杉田秀一・湯浅亘・上段順弘・谷口正登・宇野崇規・内藤直樹・清水篤・吉田史朗・船越耕司・松原亮二・坂本暁人

【美山】部長・黒田一郎・加藤孝俊・井上学・仲田只則・山本勝之／班長・池邊紳一・田口恭・田中久則・梅津彰男／河野啓介・西誠也・平川智久・平井智彦・山内勝弘・能瀬正樹・藤田敏雄・谷上浩一・大槻正樹・坂本秀史

【美山】副分団長・武田太／分団

■京都府知事表彰 (平成21年2月)

功労章

【本団】団長・益田武彦
【八木】副団長・故米田秀和
永年勤続功労章

【園部】分団長・坂矢勝哉・木戸康博

【八木】副団長・服部勝也／分団長・池田一哉・廣瀬輝明／副分団長・塩貝功

【日吉】分団長・湯浅美嗣

【美山】分団長・仲江覚
精励章

【園部】部長・奥村卓己・高屋正史・内藤高広・野々口智司

【八木】部長・中川賢治・麻田洋二・石橋栄次・松本喜孝

【日吉】部長・仁藤貴之・松本修己／班長・井尻哲司・磯部朋英

【美山】副分団長・大萱聡・眞壁正志・福原英樹・谷裕之

■消防庁長官表彰 (平成21年3月)

永年勤続功労章

【園部】副団長・片山智文

■日本消防協会会長表彰 (平成21年3月)

功績章

【日吉】副団長・中川喜代治

精績章

【日吉】副団長・久野秀一

【美山】副団長・武田太／分団

長・小原昭雄・古北勝志
勤続章

【日吉】班長・中川孝幸／船越宏・船越卓・脇根良信・塩貝真純

■丹波地方消防連絡協議会長表彰 (平成21年1月)

【園部】部長・松本久志／班長・内藤一・竹島達郎／船越潤・安達実弦

【八木】副分団長・辻田浩／部長・井上淳・栗山一也・白井出八木昌明

【日吉】班長・船越和幸・近藤秀樹・藤林裕・宇野一俊・小林正俊

【美山】部長・大野浩・近澤幸次・井上学・左近幸広・中村誠



▲日吉ダムを背景にダイナミックな一斉放水を披露

行政 トピックス



住みやすいまちづくり願う
地域の思いを府政・市政に

―知事と市長と―

和い和いミーティング

12月14日、山田知事と佐々木市長と地域住民が集い、意見交換をする「和い和いミーティング」を美山町江和の観光農園江和ランド敷地内で開催しました。



▲鹿肉解体処理施設のしゅん工を祝ってテープカット



▲より良いまちづくりを願って意見交換したミーティング

ミーティングに先立ち、同敷地内に完成した知井地区鹿肉解体処理施設のしゅん工式が行われました。増えすぎた鹿が農林業や自然環境に与える大きな被害から地域を守るために活動する知井地区鹿有効利用プロジェクト（大野安彦代表）。これらの狩猟活動で得られる資源を有効に利用しようと取り組まれています。テープカットに続き、解体処理施設の見学、そしてピザやシチューなどの鹿肉料理の試食が行われました。

会場を聴山美術館に移して行った「和い和いミーティング」には、会場いっぱいに参加者が集まりました。知事や市長と直接語り合えるこの機会にと、参加者から

は地域の活性化や課題について積極的な意見や質問が飛び交いました。鳥獣被害や鹿肉有効利用に関すること、美山のこれからの観光資源、自然環境保護、地域医療の問題…。会場内には、知事や市長に明るい未来を託す人々の、住みやすいまちづくりを一心に願う思いがあふれていました。

自然にやさしくコスト低減 資源の有効利用に取り組む

―南丹市液肥利用協議会設立総会
・近畿バイオマスセミナー―

南丹市は昨年度に「バイオマスタウン構想」を公表しました。「バイオマス」とは、動植物から生まれた再生できる有機性資源のこと、これらを安定的で適正に活用する地域を目指しています。

八木町諸畑の「南丹市八木バイオエコロジーセンター」では、乳牛や豚のふん尿、食品工場から出るおからなどをメタン発酵処理し、ガスを発生させて発電や肥料を製造。その際に発生する消化液を液肥として有効利用し、農作物を栽培する研究を京都大学と共同



▲メタン発酵施設を見学するセミナー参加者

で平成15年から進めています。この循環型社会の構築と環境保全を進める「南丹市液肥利用協議会」の設立総会が氷室の郷で1月28日に開催。会長に人見保夫水所生産組合長が選出されました。その後、バイオマスの利用促進について考える「近畿バイオマスセミナー」が同会場で開かれ、およそ150人が参加。基調講演では、梅田幹雄京都大学教授が、液肥の有効利用についての試験結果で安全性が保障されたことを報告。今後も農家と協力して栽培方法の改善、安全性の確認を追及すると話されました。その後、パネルディスカッションが行われ、参加者は自然にやさしいバイオマスの利活用について考えました。

地域医療の現状と課題を把握 安心して暮らせる環境を目指す

―南丹市医療対策審議会答申―

医師・看護師不足、医療機関へのアクセス不安など、南丹市の医療を取り巻く状況は厳しく、地域医療の充実に向けた対策が早急に求められています。そこで、南丹市医療対策審議会（佐藤史朗会長）において、住民が安心して医療を受けられる環境づくりについて討議が重ねられました。12月5日、南丹市医療圏域の医療の提供体制についての答申が市長に提出され、これをもとに今後の医療施策の具体化に向けて進めていきます。



▲答申を市長に手渡す佐藤会長（左）



▲地域活性化の新たなスタートとなった設立総会

法人化し、農業経営を合理化

―農事組合法人木喰の郷もろはた
設立総会―

八木町諸畑地区では、農業の高齢化が進む中、昭和59年から農地の保全、特産品づくりや地域活性化を行う集落営農に取り組みられています。12月20日に、農業の維持・発展のために地域農家48人で構成する農事組合法人「木喰の郷もろはた」（明田卓代表理事）を新たに設立。農地の集積、大型機械の導入により、今後は水稲をはじめ、小麦・小豆・大豆など土地利用型作物を中心に効率的で安定的な法人経営が進められます。

名所つなぐ架け橋、装い新たに

―高松橋完成式典―

府道京都広河原美山線に架かる高松橋が完成しました。旧高松橋は幅員が狭く、大型車の離合が困難でしたが、幅員6.5m、歩道2.5mの歩行者にも安全な橋となりました。12月24日の式典では地元平屋小学校児童が鼓笛演奏で花を添え、テープカットの後、出席者全員で渡り初めをしました。

なお、高松橋がつなぐ大野ダムから芦生ロードパークまでが『美山かやぶき由良里街道』として、府内3カ所目の日本風景街道（国土交通省）に登録されました。



▲広くなった橋上でテープカット



▲和やかな雰囲気の中行われたワークショップ

「協働」今なぜ必要なのか 連携による地域づくり検討

―地域協働トライアル―

『地域協働トリアル・京都中部』「結い」の再生に向けて、1月23日、24日の2日間、南丹市国際交流会館で開催。行政をはじめ、龍谷・同志社・立命館の各大学などで構成する実行委員会が主体となって企画運営しました。龍谷大学富野暉一郎教授による基調講演の後、5グループに分かれてワークショップを行いました。参加者は住民代表、学生、職員などがそれぞれの立場から「協働」を考え、協働と連携による地域づくりの方策を検討しました。

いっき いっき 南丹

-30-

お元気ですか？
保健師です。



新型コロナウイルスエンザへの対策

～一人一人の心掛け、協力が必要ですよ！～

新型コロナウイルスエンザの万一の発生に備えて、今回はその「対策」についてお知らせします。

新型コロナウイルスエンザが発生した場合、多くの人の感染が予想されます。感染拡大を防ぐため、外出を控えることも対策の一つとなります。そのため、日常生活や社会機能の維持に必要な人材・物品の確保が困難になるなど、さまざまな問題が生じることが考えられます。新型コロナウイルスエンザが発生していない今から、備蓄物品の準備や予防の習慣など、個人や家庭でできることを心掛けましょう。

流行した時の対策は？

国や自治体からは迅速で正確な情報提供を行うとともに、不要不急の外出の自粛要請などの対策を講じます。市民の皆さんは、テレビや新聞、雑誌などのマスメディ

アの情報と併せて、府や市の発信する情報に留意してください。

ワクチン接種や治療薬の投与などは、計画的に対応することになります。治療が必要な方に投薬できるよう、現在、国や府で備蓄が行われています。行政と医療の連携により、発症した患者には専門的な医療体制で対応することとなります。

今すぐできることは？

手洗い、うがい、マスクの着用（咳エチケット）など、簡単なことですがつい忘れがちになります。インフルエンザは容易に人から人に感染するため、他人にうつさないことも重要です。一人一人が自覚し、心掛けましょう。

また、新型コロナウイルスエンザの流行に備えて、食料・水・日用品の確保や備蓄をおきましょう。

家族で確認しよう！

チェック！備蓄品リスト

*** 食料品 ***

- ・米、パックご飯、切りもち
- ・飲料
- ・乾パン、クラッカー、コーンフレーク
- ・乾めん（そうめん、そば、スパゲティ、インスタントラーメン、カップラーメン）
- ・レトルト食品（カレー、おかゆ、シチュー、みそ汁）
- ・イモ類、ナッツ類 ・缶詰（さば、いわし、さけ、コンビーフ）
- ・乾燥フルーツ（イチジク、レーズン、プルーン）



*** 日用品 ***

- ・洗剤（洗濯用・台所用）、塩素系漂白剤（洗濯時に使用）
- ・ティッシュペーパー、トイレットペーパー
- ・保湿ティッシュ ・生理用品、紙オムツ（必要な方）
- ・ビニール袋（ウイルスに汚染されたゴミの密閉に使用）
- ・洗濯用ロープ ・ペットフード（ペットのいる家庭）



*** 医療品 ***

- ・マスク（ウイルス防御）
- ・うがい薬
- ・体温計
- ・消毒用アルコール
- ・のどあめ（薬用）
- ・手洗いせっけん（薬用）
- ・アセトアミノフェン系鎮痛、解熱剤（アスピリン系は避ける）
- ・胃薬や風邪薬などの常備薬
- ・持病の薬、ビタミン剤
- ・ゴム手袋（使い捨て）
- ・水枕、冷却用品



これらを参考に、食料品、日用品、医療品など、少なくとも2週間分を備蓄しておきましょう！



ふるさとの味つなく、おばちゃんの手作り

～三色ちまきグループ～



「白菜キムチ」

【材料】

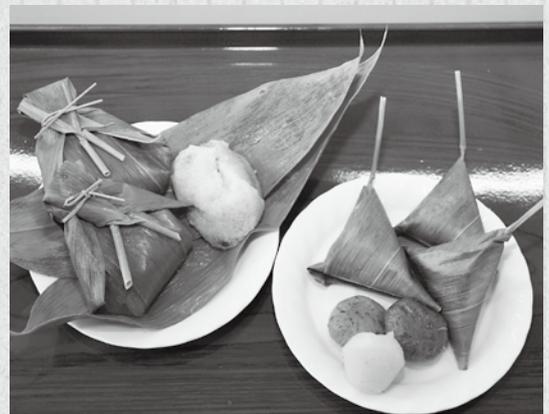
白菜 (5kg)、塩 (350g)、ニラ (1束)
 粉唐辛子 (中粒: 大さじ4、粉末: 大さじ3)
 白桃の缶詰 (大1缶)
 リンゴまたはナシ (1個)
 ニンニク (50g)
 アミの塩辛 (100g)
 ※小エビの塩辛 (チョッカル)
 砂糖 (50g)、昆布茶 (大さじ1)
 化学調味料 (10g 弱)

【作り方】

- ① 分量の塩から170gほどで塩水を作る。
- ② 白菜を4等分にして塩水に漬ける。残りの塩を白菜の葉の間や軸の根元に付ける。
- ③ 一晚漬けて置く。その間、何度か白菜をひっくり返す。
- ④ 白菜を水洗いし、ざるにあげて一晚水切りをする。
- ⑤ 白桃・リンゴ(ナシ)・ニンニク・アミの塩辛をミキサーにかける。
- ⑥ 粉唐辛子・砂糖・昆布茶・化学調味料を⑤に加えて、5cm幅に切ったニラを混ぜる。
- ⑦ ④の白菜の葉の間に外側から順に⑥のタレを塗り込む。
- ⑧ すきまのないように並べて詰め、上にラップフィルムをかぶせて保存する。

三色ちまきグループ
 代表 塩貝 貞子
 TEL: (0771) 74-0542

昨年度の「南丹地域ふるさと加工食品新商品開発コンクール」菓子の部で最優秀賞に輝いた「笹雫(ささしずく)」。日吉町の「三色ちまきグループ」から生まれた何とも柔らかくて優しい味の生菓子です。会員の畑で採れた日吉産の小豆と由良川の水でじっくり時間をかけて炊き上げられたあん。中には栗が入り、笹の葉に包まれています。グループが誇る一番のオリジナル商品です。



▲栗の入った笹雫(左)と素朴な味わいの三色ちまき(右)

三色ちまきグループは京都国体前の昭和60年に会を結成。現在は会員6人で、先輩から引き継いだ地域に伝わるシソ、よもぎ、白の「三色ちまき」を作り続けています。笹の葉は、毎年7月中旬に会員自らが山に登って一年分を採取するそうです。ほかにも、たくあん、もろみ、さんしょみそ、コロツケ、冬場には白菜キムチなど、日吉の恵みをふんだんに使って作られています。年間を通して胡麻駅前の朝市や日吉ダム



▲慣れた手つきで作る今川焼き

マラソンなどのイベントで出店。スプリングスひよし里の市では、今川焼きにキャラクター「ゆっぴり」の焼印が特別に押されます。「若い人の口にも合うように新しい味を考えなアカン」「クリーム入りの今川焼きがないかって聞かれるわ」。商品開発の構想はこれからもどんどん広がっていくようです。

各図書館の開館時間

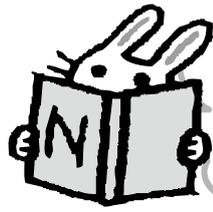
(休館日) 毎週月曜日・祝日

中央図書館：9時～17時

八木図書室：10時～18時・(日曜)10時～17時

日吉図書室：9時～18時・(土・日) 9時～17時

美山図書室：9時～17時・(金曜のみ)11時～18時



イメージキャラクター「なびっと」

図書館へようこそ!

No.15

直木賞・芥川賞受賞作品を読もう!

あくたがわ

第140回(平成20年度下半期)直木賞・芥川賞の受賞作品が、1月15日に決定されました。今回は、市内の図書館・室で貸出できる受賞者の作品をご紹介します。

直木賞・芥川賞って?

直木三十五賞(直木賞)・

芥川龍之介賞(芥川賞)は、文藝春秋創設者の菊池寛が昭和10年に、友人小説家の名を記念して制定しました。それぞれ大衆小説作品・純文学の最も優秀な新人の作品に与えられます。毎年上半期・下半期の2回、日本文学振興会によって選考、贈呈されます。

では作品を所蔵しています。

【山本 兼一さん】

京都市出身の山本さんは、歴史時代小説を得意とされています。受賞作「利休にたずねよ」はもちろん、今秋映画化が予定されている「火天の城」「千両花嫁」「白鷹伝」の4作品を所蔵しています。

芥川賞受賞者の作品

【津村 記久子さん】

大阪生まれで、京都の大学を卒業された津村さんの作品は「君は永遠にそいつらより若い」「婚礼、葬礼、その他」があり、受賞作「ポトスライムの舟」も図書館で所蔵しています。

直木賞受賞者の作品

【天童 荒太さん】

直木賞を受賞される以前から人気のあった「悼む人」をはじめ、ベストセラー「永遠の仔」や映画化された「包帯クラブ」など、市内の図書館

新刊紹介

◆直木賞受賞作品



『悼む人』

著…天童 荒太
発行…文藝春秋

全国を放浪し、死者を悼む旅を続ける主人公。彼は聖者なのか、偽善者か。「悼む人」は、誰なのか。7年の歳月を費やした長編小説。

◆直木賞受賞作品



『利休にたずねよ』

著…山本 兼一
発行…PHP研究所

「わしがぬかずくのは、美しいものだけだ…。」おのれの美学だけで天下人・秀吉と対抗した男・千利休の鮮烈なる恋、そして死を描く。

◆芥川賞受賞作品

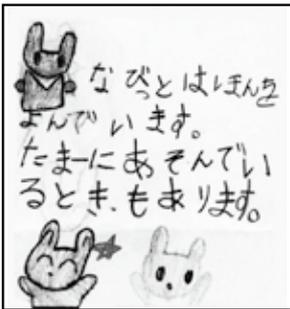


『ポトスライムの舟』

著…津村 記久子
発行…講談社

世界一周の費用と年間手取り給が同額だと気づいた契約社員の女性主人公は、執拗(しつよう)なまでの節約を試みるが…。

なびっとの4こまマンガ



作：よしだ まゆさん

※この作品は、平成19年8月に募集した「なびっと4こまマンガ」の中から掲載しています。

マラウイ体験記

〈中編〉

マラウイには11月から4月にかけて雨期がある。この恵みの雨でマラウイ人の主食トウモロコシは人間の背丈を軽く超える。もちろん雑草も元気良く伸びる。

ある日、目が覚めると誰かがうちの家の周りの草を刈っている音。私は草刈りがまを買っていなかったのに、雑草は伸び放題だった。カーテンのすき間から恐る恐る様子を見ると、隣の家のおっちゃん。「うわっ、刈ってくれている。お礼どうしよう」ここはアフリカのマラウイ。お礼について何かやり方があるに違いない。同僚の近所のおばちゃんの家を駆けつけた。おばちゃんは驚くべき風習を話してくれた。「お礼をまず、言いなさい。物を渡す必要は決まっていなくても、どうしても渡さないと気が済まないなら2、3カ月たってから砂糖でも1パック持つて

いったら？」と。「ええ!? そんなに遅かったら隣のおっちゃんは草刈りのお礼ってことを忘れてしまうやん」するとおばちゃんは、「お礼として物を渡したら、『この人は僕の親切を受け止めてくれなかった』となるわ。どうしても返したければ相手が忘れたころに渡せばいいのよ」。そう教えてくれた。

日本では、相手が忘れないうちに『あれのお礼はこれ』と、お互い貸し借りのないのがすっきりして良いと感じる。ここでは、物で返したら相手の親切をはねつけることになるのだ!と驚いた。

家に戻って「おっちゃん、ありがとう」とお礼を言った。しかし、まだ体の中に借りが残って居心地が悪い。そのうち、自分ができることがあれば誰にでも惜しみなく親切にしてあげたい気分が変わった。おっちゃんの親切で自分の体が満ちていたからだろう。



渋谷 明香里 さん

美山町内久保出身。

2006年10月～2008年10月までの2年間、青年海外協力隊としてアフリカのマラウイ共和国へ。現地の生活を通して体験したことをつづけていただきました。

マラウイ共和国

首都:リロングウェ
面積:11.8万平方km(北海道と九州を合わせたほどの面積)
人口:約1,320万人(2006年、世界銀行統計)



環・境・市・民

～環境にやさしい生活を始めましょう～



—第6回—

さあ始めよう!
家庭でできる温暖化対策

大事に使おう

限りある緑の資源

毎日当たり前のように使っているティッシュペーパーやトイレットペーパー。鼻をかんだり、汚れをふき取ったりと、私たちの生活になくてはならないものです。これらは木材パルプや古紙から作られています。ご存じのとおり、もともとはすべて木を原料としています。日本は、ティッシュペーパーの大量消費国であり、1人当たり年間約4キログラムのティッシュペーパー、約7キログラムの

トイレットペーパーを使っていると知られています。以前は、汚れをふく際も、ふきんを利用して繰り返し洗って使っていました。今は使い捨てのペーパータオルなどが安易に使われています。コピー用紙や新聞紙、雑誌はリサイクルできますが、こうしたペーパーは使い捨てのため、リサイクルができません。だから大事に使わないともったいない!

・商品を買う際には、環境に配慮したものを選ぶ
・机をふく際はふきんを使う
・手ふきの紙ではなくハンカチを使う



一人一人のちょっとした心掛けで、限りある資源の消費量を減らすことができます。日々使うものだからこそ、気を遣いたいものですね。

(環境課)

みんなのひろば

まちの話題を紹介します



「目に浮かぶ情景、ふるさとへの思い」

(1/25) スプリングスひよし、日吉ダム10周年記念事業川柳・絵画表彰式

スプリングスひよし開業と日吉ダム運用開始10周年を記念して募集した川柳と絵画には、市内外から多数の作品が寄せられました。どの作品にも、温泉やダムに寄せる思い、情景が目に浮かぶように描かれています。川柳の部最優秀賞(南丹市長賞)として、温泉部門には田中忠夫さん(日吉町)の「湯けむりに 笑い声して 里じまん」が、同じくダム部門には井尻豊貞さん(亀岡市千代川町)の「湖底より あの日の歓声 こだまする」が入賞。絵画の部には、兄弟そろって応募してくれた藤林ゴウくん(吉富小4年)、シュウくん(同)の作品がそれぞれ特別賞に入賞。1月25日にスプリングスひよしで表彰式を行った後、参加者全員でもちつきを行い、受賞を祝いました。

応募全作品は、5月6日まで日吉ダムビジターセンターに展示しています。



▲受賞者の田中さん(右)に副賞の日吉特産品が贈られました

「子どもとの触れ合いを大切に 家庭・地域で子育てしよう」

(12/14) 南丹市青少年すこやかフォーラム

子どもの健やかな成長を地域や家庭で支えていくことを目指すフォーラムが園部公民館で開催されました(南丹市要保護児童対策地域協議会・南丹市青少年育成協会・南丹市PTA連絡協議会主催)。「3年B組金八先生」などの脚本家、小山内美江子^{おさない}氏を講師に迎え、子どもの話を聴く、抱きしめるなど、触れ合いの大切さを考える機会となりました。また、カンボジアでの日本の大学生らとの学校建設活動の話に、参加者は深い感銘を受けておられました。



▲自身の経験をもとに語りかける小山内さん

「味自慢が勢ぞろい 隠し味は心配り」

(1/22) 南丹地域ふるさと加工食品研修会



▲専門家に加工食品の講評を受ける参加者

地域の特産物の普及、加工品づくりに取り組むグループの研修会が市国際交流会館で開催されました(南丹地域農村女性・加工研究会主催)。総菜やつくだ煮など自慢の35品が並び、専門家の指導を受けました。同研究会会長の松本多美子さん(八木町)は「人においしいと言ってもらうことが一番の生きがい。おいしいものを食べると心が和むし、そのためには衛生面や保存への配慮が必要。本日の研修を各グループの活動に生かしてほしい」と笑顔で話しておられました。

「手を取り笑顔交わす異文化交流」

(2/9) サイパン島青少年交流団歓迎会

サイパン島のホップウッド・ジュニアハイスクールの生徒13人とツデラ市長らが、2月9日からの2日間、南丹市を訪問。市内の中学生や日吉国際交流協会、南丹市国際交流協会設立準備会メンバーらおよそ60人で歓迎会を催しました。市内中学校の各代表4人が英語で歓迎スピーチをし、サイパン島の生徒らはダンスを披露。短時間でしたが、初めははにかんでいた中学生も紙コップにサインを交わし合うなど積極的に交流を楽しんでいました。



▲手を取って一緒にダンスを楽しむ生徒たち

「シャキシャキみず菜を全国にPR」

(2/12) NHK「ぎょうの料理・全国キャラバン」公開収録



▲自ら生産したみず菜の白和えを紹介する麻田さん夫妻 (中央)

地元の味の魅力を再発見する「ぎょうの料理・全国キャラバン」の公開収録が八木農村環境公園「氷室の郷」で行われました。

八木町のハウス栽培で年間約200トンを生産している京の伝統野菜「みず菜」をテーマに、地元3組が鍋料理、肉まん、白和えを腕自慢。いずれもおいしさのポイントはシャキシャキとした食感を損なわない火加減。イタリアンレストラン店主の落合務さんが試食・講評した後、収録会場の観客も納得の腕前を披露されました。

市内の60歳以上の方が、福祉・文化の講演会や健康づくり教室などを受講し、新たな教養・知識を身につけながら生き生きとサークル活動されている「南丹大学」。生涯学習推進事業の一環で今年度は206人が在学されています。そのうち、専門学部の受講生が日ごろの成果を発表する「南丹大学祭」が八木公民館で開催され、書道・押し花・写真各部による作品展示、料理部お手製の弁当配布、歌謡・社交ダンス・コーラス各部の舞台発表が行われました。訪れた家族や孫にうれしそうにほほ笑む受講生の様子が和やかでした。



▲歌詞は全部覚えて5曲を発表(コーラス部)

「色あせぬ意欲、はつらつと成果発表」

(2/7~8) 南丹大学祭



▲それぞれの価値観で美山の魅力を語るパネリスト

『美山の魅力と可能性Ⅲ 新しい風を起こす、むらの元気をつくる』(佛教大学、美山まちづくり委員会、南丹市共催)を美山文化ホールで開催。基調講演では、早稲田大学宮口侗迪教授が「農山村は農の技を磨き、都市には作り出せない価値・魅力を作ることが大切」と述べられました。また、美山に移り住んだ食品加工者、牧場経営者、かやぶき職人など5人のパネリストが、一度離れて知った美山の価値や、自然や農地が地元の人の手によって守られていることを再認識した話を語りました。

「価値再発見!この地こそが魅力」

(2/15) 第3回美山フォーラム

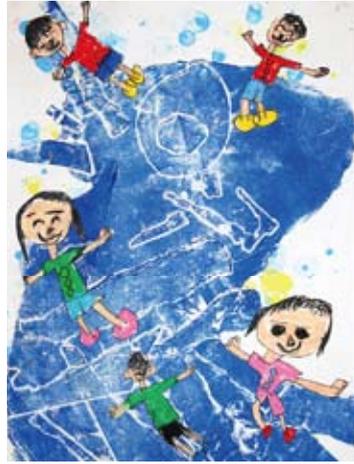
なんたんミュージアム -13-

―南丹市立平屋小学校―

※担任の先生、担当教科の先生の
の講評を掲載しています。

「ウコッケイとともだち」

野谷 健太さん（1年）



▶ウコッケイと遊んだことを絵にしました。大きなウコッケイ、にこにこした顔。楽しかった様子が伝わってきます。

「和風（わだこ）」

大前 達也さん（5年）



▶和紙に墨と染料で色使いを工夫して描きました。竹ひごとした糸を付け、空に揚げる立派な和風が作れました。

「ビル」

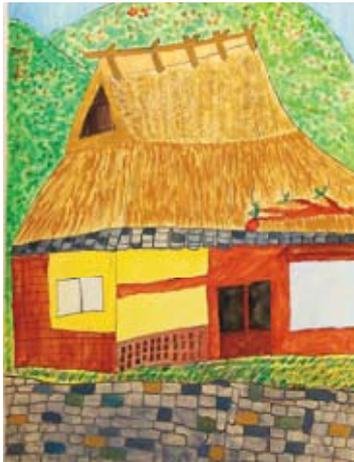
大澤なず奈さん（3年）



▶曲がりど折れの違いを意識して書きました。自分の名前も大きく立派です。

「ぼくたちのまち平屋」

小島 拓也さん（6年）



▶美山町のシンボルでもあるかやぶきの家を、色使いを工夫し、細かく丁寧に仕上げることができました。

編集後記

全国的にインフルエンザが流行する時節、いつもながら私も「のどが痛い、熱が出た」とグズグズ。でも今年は至って元気！子どもたちからの「耳たこフリーズ」「手洗い、うがい」はやっぱり一番の対策です。睡眠、それから栄養たっぷりバランスのとれた食事。人にも物にもバランスって重要な要素なんですね。

(A)



市の花 さくら 市の木 ふな 市の鳥 オオルリ
森・里・街がきらめくふるさと 南丹市 なんたんし



●総人口：35,134人(-52)
(男：16,905人・女：18,229人)
(-37) (-15)
●世帯数：13,502世帯(-31)
(平成21年3月1日現在)
()内は前月比



●日吉町 松岡 あつき 篤希くん（3歳・左）
しほ 史歩ちゃん（7カ月）

「優しく、元気で、たくましい人になってください」
(父・母より)

写真掲載の応募をお待ちしています。(応募数によっては順番待ちになることがあります) 詳しくは情報推進課広報広聴係まで

広報 なんたん

編集・発行：南丹市役所 企画管理部情報推進課
〒622-8651 京都府南丹市園部町小桜町47

TEL:0771-68-0019 FAX:0771-63-0653
URL:http://www.city.nantan.kyoto.jp
e-mail:jouhou-s@city.nantan.kyoto.jp



本紙は環境への配慮から、再生紙に、ソイインキ(大豆油)で印刷しています。